

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい	○	一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か		市が行うべき	○	他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか	○	急いで取り組む		中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している(90%以上)	○	おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度	○	重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正		負担は求められない	○ 見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				○
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	<p>現在、少年の野外活動、集団宿泊体験を通じ、少年の健全育成に成果を上げているが、人件費の抑制、市民サービスの向上を図るうえで、施設の改修後、指定管理者制度の導入を検討する必要がある。</p>
「見直し」 「改善」案	<p>利用者が快適に過ごせるよう、老朽化した当施設の改修を行う。また、改修後の運営・実施体制については以下の3点を検討する。</p> <p>①少子化の影響により現在、小・中学生の利用者が減少傾向にあり、また、高校生・大学生からの利用したいのといあわせがあることから、利用率向上を図るため、青年の利用ができるよう検討する。</p> <p>②市民サービスの向上や経費削減を図るため、指定管理者制度導入について検討する。</p> <p>③エアコンの設置など施設の整備を行うことから、使用料の見直しを検討する。</p>